

# 学びの音

城下小学校 校長室だより

令和5年7月24日

## 城下に小学校をつくる

城下小学校は、今年で開校 150 周年になります。城下小学校が生まれて 150 歳の誕生日をお祝いしようと、今年は様々な記念行事がありますね。航空写真を撮ったり、記念樹を植えたり、記念運動会を行ったりと、1 学期もいくつかのお祝いの行事を行ってきました。そして 2 学期も記念式典や記念音楽会等の行事が予定されています。

今日は、150 年前にさかのぼり、城下小学校が生まれたころの様子をお話しします。

今から 151 年前、時は明治 5 年、国は「学制」を出して、国民教育に関して全国に公立学校をつくることにしました。それまでは、「寺子屋」と呼ばれたように、子どもたちはお寺に集って「読み書きそろばん」を学んでいた時代です。城下地区も「学制」を受けて翌明治 6 年（1873 年）に、当時の小牧村、諏訪形村、御所村、中之条村の四か村が一つの学区となり、学校をつくることになりました。これらの村ではどのように学校をつくるか相談し、県庁の許可を受け、村民の願いを込めて開校したのが「亮功学校」です。この「亮功学校」が今の城下小学校の始まりです。はじめは校舎がすぐにできなかったのも、御所の祥雲寺を借りて勉強を始めました。全校児童 154 名の始まりでした。明治 10 年、「亮功学校」は中之条に校舎を新築して祥雲寺の校舎から移りました。「亮功学校」は通学区が大変広がったので、翌明治 11 年、小牧村と諏訪形村は今の荒神宮の近くに「諏訪形学校」を開校しました。



御所 祥雲寺

さて、学校名に「城下」という名前が出てきたのはいつごろでしょう？明治 22 年（1889 年）4 月の町村制の実施により、小牧村、諏訪形村、御所村、中之条村の四か村は合併して「城下村」となりました。この時「亮功学校」と「諏訪形学校」を一つにして、「城下尋常小学校」ができました。明治 23 年には、今の城下駅の近くに新しい校舎をつくりました。

何度か校舎を移したり、つくったりするのは、大変お金がかかりました。授業料も今のようには無料ではありません。大勢の人たちが協力して寄付金を集め、授業料の補助をして、大勢の児童が通学できるように努力してくれました。稲作・養蚕を中心とした一般の家庭では、子どもも子守や農作業の手伝いをしていました。学校へ通うのは手伝いをする人が減ったりお金がかかったりして大変でした。その中で、みんなの努力や協力、保護者の理解等により通学する人はだんだん多くなっていきました。当時の子どもたちが勉強していた教科も今と異なります。明治の初めの頃は、読み書き取り・習字・算術・修身・歴史・地理などでした。尋常小学校の頃になって図画・唱歌・体操・理科・裁縫・手工等、現在の教科に通ずるものになりました。

そして、大正 11 年（1922 年）、今から 100 年ほど前に、現在の城下小学校がある場所に校舎を移転しました。

さて、その後の城下小学校はどのような歩みをしたのでしょうか？学校にも当時の姿を感じることができる資料があります。皆さんで調べてみてはいかがでしょうか？

明日から長い休みに入ります。安全に生活すると共に、夏休みにしかできない体験や研究等ができるといいですね。